

日本産業衛生学会

## 近畿地方会ニュース

発行所 日本産業衛生学会近畿地方会(事務局)  
〒634-8521 奈良県橿原市四条町840  
奈良県立医科大学地域健康医学教室内  
専用TEL・FAX.0744-22-1801  
発行責任者・車谷典男(地方会会長)  
<http://jsohkink.umin.jp>

## 第88回日本産業衛生学会の成功を!

近畿地方会会長 車谷 典男



新年あけましておめでとうございます。近畿地方会会員の皆様にとっても近畿地方会にとっても、素晴らしい一年になることを祈念いたします。

新年にあたり、紙面をお借りして一言ご挨拶申し上げます。

今年の地方会の最大行事は何と云っても、5月13日(水)から16日(土)にかけてグランフロント大阪で開催される第88回日本産業衛生学会です。岡山学会の終了前から開始した準備は順調に進んでいて、プログラム委員会を中心とした多くの先生方の英知のもと15を超えるシンポジウムが既に決定され、大阪市大名誉教授堀口俊一先生や関西医大名誉教授徳永力雄先生が演者に加わっていただけることになった、教育講演「産業保健の歴史と展望17話」も組むことができました。いずれも近畿地方会ならではの企画になっています。

このニュースが届く頃には、目標を550題と設定した一般演題の募集も締め切っていて、開催規模が推定できる状況になっていると思います。かつて一般演題の募集時期は、年末年始を含んで1月中旬頃までが普通であったような、また年明けからの開始の頃もあったような覚えがあります。近年、1、2か月ばかり前倒しになったため、学会開催日の半年近くも前になる抄録提出は早すぎるといった印象を持っておられる方々も多くおられることでしょう。これはCOI(利益相反)の観点からの抄録原稿の「査読」期間が必要になったことによります。したがって、今後も同様な傾向が続くこととなります。一方で、タブレットで抄録を閲覧することも一般的になってきていて、あの分厚い抄録集を持ち歩くこともなくなりつつあります。今回もタブレットで閲覧できるようにし、抄録集は開催当日に手渡すことを予定しています。抄録集の発行自体はさすがにまだ続くと思いますが、そのうち日本産業衛生学会本体のホームページに吸収されてしまうかも知れません。

少し無駄話になりました。第88回に向けて、一人で

も多くの会員の方々にご参加いただけますよう、今まで以上に、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

地方会にとって重要なお知らせがもう一つあります。それは、第26回産業医産業看護全国協議会を近畿地方会担当で開催することになったことです。2016年の9月です。しかも、この時は技術部会と歯科保健部会も合流した新しい協議会になるという歴史的な節目になる、と聞いています。

今年の近畿産業衛生学会は第55回を数えることとなりますが、丸山総一郎神戸親和女子大学大学院教授を会長として、11月14日(土)に兵庫県医師会館(三宮)で開催されます。丸山先生のご専門領域での企画が進みつつあると聞いています。会員の皆様に日程確保をお願いしたいと思います。近畿地方会の活動としては、その他、6月の地方会総会に加えて、産業医部会、産業看護部会、産業技術部会の研修会や講演会などが、盛り沢山に計画されています。充実した一年になると思います。

さて昨年、役員選挙がありました。私は、圓藤地方会長の後を引き継いで、6年間地方会長を担当させていただきました。圓藤先生も6年間であったと記憶しています。皆さん方の絶大な協力を得て、大過なく会長を務めさせていただいたことを心に刻んで、この2月末日をもって、和歌山医大森岡郁晴教授にバトンタッチさせていただきます。不手際も多々あったかと思いますが、ご寛容をお願いするとともに、厚く御礼申し上げます。今後は一会員として近畿地方会活動に多少なりとも貢献させていただければと思っています。

とはいえ、第88回日本産業衛生学会成功へ向けて、今まで以上のご協力をよろしく願い申し上げて、新年のご挨拶とさせていただきます。



# 第54回近畿産業衛生学会のご報告

近畿大学医学部公衆衛生学

第54回近畿産業衛生学会 学会長 伊木 雅之



2014年11月15日(土)に近畿大学東大阪キャンパスにおいて、第54回近畿産業衛生学科を開催いたしました。大阪府医師会、大阪産業保健総合支援センターの共催をはじめ多数の関係機関、関係者の皆様から多大なるご支援をいただき、参加者200名、一般演題33題の充実した学術集会となり、盛会裏に終了することができました。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。

2005年以降、我が国は人口減少時代に入り、ここ数年間の合計特殊出生率は1.4代を回復したものの、年間出生数は減少の一途をたどっています。それは、第2次ベビーブーム世代が再生産年齢から外れはじめ、再生産人口が減少しているからです。すなわち、少子化対策は今を逃しては成功しないのです。少子化対策の中で最重要事項のひとつは女性が安心して子を産み、育てられる職場環境の整備です。そこで、すこやか親子21計画と少子化対策の第1人者である山梨大学大学院医学工学総合研究科社会医学山縣然太郎教授をお招きし、「職場から少子化対策を考える」と題して特別講演をいただき、それを受けて、シンポジウムでは「産業保健から見た就労支援とワークライフバランス」をテーマに、3人のシンポジストの先生にご講演いただきました。まず、名古屋大学大学院医学系研究科看護学専攻准教授渡井いずみ先生にはワークライフバランス不調の生活習慣やメンタルヘルスへの悪影響とワークライフバランス改善への産業保健職の関わりについて具体例を示してお話し頂きました。日本生命相互会社サービス企画部担当部長兼輝き推進室調査役山内千鶴先生には、同社で取り組んでこられたワークライフバランス推進事業の経緯、中でも男性の育児休業100%取得にいたる取組みとその効果についてお話し頂きました。最後にパナソニック健康保険組合健康管理センター健康管理支援部副部長橋口克頼先生にはともすれば産業保健の直接の課題からは遠いと思われるがちなワークライフバランスだが、産業保健職がメンタルヘルス不調の原因にワークライフバランス不調があると気づければ、そして社内の支援制度に精通しておれば、解決に貢献できる事例は多くあることを指摘いただきました。開場からも多くの発言があり、ワークライフバランスの進め方と産業保健職の関わりについて多くを学べたシンポジウムになったと考えます。

一般演題では33題の発表があり、座長と企画運営委員会で、近畿産業衛生学会優秀演題賞と同若手奨励賞を選考しました。前者は西田典充先生(一般財団法人京都工場保健会)と東久博先生(パナソニック健康保険組合 産業衛生科学センター)が授賞され、後者は津野香奈美先生(和歌山県立医科大学医学部衛生学教室)と辻村友香先生(京都大学大学院医学研究科 社

会健康医学系専攻健康情報学分野)が授賞されました。いずれも素晴らしい発表で、今後のご活躍が期待されます。

懇親会では、近畿大学が誇る全国大会金賞常連の近畿大学吹奏楽団がジャズのスタンダードを4曲、いずれも素晴らしい演奏を披露してくれました。また、今や近畿大学の顔とも言える近大マグロをその場で解体し、にぎりと刺身でご賞味戴きました。いずれも参加者の皆さんの好評を博しました。

産業衛生学会の目的は働く者の健康を守り、増進することですが、今回は社会全体の重大な問題である少子化に産業保健の立場からも取り組む視点を提起しました。本来の目的からやや外れた感もありますが、子孫を残すという生物の根幹とも言うべき機能に現在の働き方がそぐわないとすれば、それは働き方が間違っているに相違ありません。その解決の方途のひとつがワークライフバランス推進であり、これは次回の日本産業衛生学会のメインテーマであるQuality of Working Lifeの改善に繋がる方向だと考えています。第54回近畿産業衛生学会が伝統ある本学会に少しでも寄与できたとすれば、たいへん光栄に存じます。

本学会の準備、運営にあたり、日本産業衛生学会近畿地方会長車谷典男先生には諸事ご高配を賜り、第53回学会会長中山健夫先生、第52回学会会長森岡郁晴先生には学会開催のノウハウなど貴重なご助言をいただきました。記して御礼申し上げます。また、本学会にご支援、ご参加くださいました皆様に改めてお礼を申し上げます。末筆になりましたが、次回、丸山総一郎先生が会長を務められる第55回近畿産業衛生学会のご盛会を祈念申し上げます。

## 第54回近畿産業衛生学会企画運営委員会

氏名	所属
伊木 雅之	(学会長) 近畿大学医学部公衆衛生学
井上 幸紀	大阪市立大学大学院医学研究科 神経精神医学
大脇多美代	大阪産業保健総合支援センター
久保田昌詞	大阪労災病院治療就労両立 支援センター
津田 由紀	パナソニック健康保険組合 健康管理センター
橋口 克頼	パナソニック健康保険組合 健康管理センター
前田 節雄	近畿大学総合社会学部人体振動研究室
益江 淑子	北大阪地域産業保健センター
甲田 勝康	(学会事務局長) 近畿大学医学部公衆衛生学

## 第54回近畿産業衛生学会の報告

「第54回近畿産業衛生学会  
一般演題の報告」日生病院予防医学センター  
藤岡 滋典

第54回近畿産業衛生学会では、3会場6セッションで33題の一般演題が発表されました。演題のジャンルは、健康管理・保健指導、産業看護、メンタルヘルス、喫煙対策、化学・物理的環境、疫学的研究、その他多岐にわたりましたが、最近注目を集めた印刷業における胆管癌多発事例の研究の一環として職業と発症との関連性、また原発事故関係の福島県川内村における放射性セシウムの動態シミュレーションなど興味深い研究も報告されました。

私が拝聴した中で印象に残った発表について紹介いたします。はじめに、奈良県立医科大学大原賢了先生の「職業とがん検診受診行動」、大阪大学喜多村祐里先生の「職業と疾病リスクの関係」について、前者では職業の違いががん検診の受診行動に影響していることが報告され、特に自営業・農林水産業の非受診が高率で、職業の特性を考慮したがん検診の実施体制の重要性を強調されました。また、職業と疾病リスクの関係では、全死因および主要疾患群別の死亡リスクは職業によって有意に異なり、最もリスクが高かったのは農林・漁業職であることが明らかとなり、先のがん検診の受診行動分析結果と相俟って同職種に対するケアの重要性が示唆されました。

次に、健康診断結果とレセプト突合分析による疫学的検討についても2題報告されました。三洋電機井上千恵先生の「健診での高血圧とレセプト突合分析とその後の展開」では、降圧薬の処方があるにも関わらず服薬意識が低い方が多く血圧コントロールが不良であること、Ⅲ度高血圧でも未受診で放置している方も存在すること等が示され、これら高血圧フォロー対象者への諸対策も提示されました。また、京都大学辻村友香先生の「高血圧・糖尿病受診勧奨者のレセプト突合分析」では、受診勧奨されても受診していない者が多くいること、特に若年者、肥満傾向が低い者に未受診者が多いこと等が明らかとなり、今後健診受診者の特徴を考慮した受診勧奨システムの構築と、健診から受診まで一貫性を持った健診の評価・研究の必要性を述べられました。この演題は若手奨励賞を受賞されましたが、いずれの発表からも今後の健診・事後措置、産業保健活動等の充実化について学ぶ貴重な機会をいただきました。

## 第54回近畿産業衛生学会の報告

「第54回近畿産業衛生学会  
特別講演を拝聴して」近畿労働金庫  
藤吉 奈央子

“職場から少子化対策を考える”と題した特別講演を山梨大学大学院の山縣先生より拝聴しました。このタイトルから私が連想した内容は“出産前後に職場ができるサポートとは何か”という事でした。ですが、先生の言葉とスライドから出てくる文字は“10歳代の自殺率”“児童虐待”“妊産婦の死亡率”等…“私の認識が違う！もっとスケールの大きなテーマだ！”と認識を改め拝聴しました。

健やか親子21（第2次）で『全ての子供が健やかに育つ社会』が10年後に目指す姿とされています。その背景に、子供も虫歯、肥満、妊婦やパートナーの喫煙率、また母乳育児にまでも都道府県格差の問題があるという事実を示されました。恥ずかしながら私は想像すらしていない内容でした。また先生は今の育児や家事は以前と比較すると体力的な負担は減っているのに、なぜ精神的な負担が増えているのか…という事にも触れられました。この要因のひとつとして、人とのつながりの希薄化、ソーシャルキャピタルの問題があると指摘されました。私自身、育児の真ただ中におりますが、母から“私たちの時代は近所の人同士の助け合いがあったけど、今の時代は助け合いが減って大変ねえ”と言われます。幸い私は近所の人や同じ保育所のママ達のサポートを受け、保育所の送迎など助けてもらったりしてこれまでの危機を乗り越えてきた経験もあります。しかし、これらのサポートがなかったら、かなり精神的に辛かった事を思うと、育児をしながら仕事をするという事は精神的にも体力的にも綱渡りのようなギリギリの生活であったと認識させられます。

これまで私は“健やか親子21”などと聞くと地域の母子保健の領域であり産業で仕事をする中で少し他人事として聞いていました。今、保健師の分野も地域（保健師やその他の職種）との連携が必要であると叫ばれているにも関わらず、今回拝聴したような内容まで想像を広げる事が出来ていませんでした。そういった意味でも先生のお話は、まさに“目から鱗”であり良い刺激になりました。先生が“これまでの考え方や経験からだけに固執せず考えを改める必要がある”と強調されました。私も自分の経験を踏まえ、産業保健に関わる立場とし、また一人の働く女性として、自らがどのような関わりを持っていけるか、またどのような認識を改めるべきかなどを考えていきたいと思いました。最後に産業衛生学会としても、この問題に取り組んでいく必要性も先生から示唆がありました。

## 第54回近畿産業衛生学会の報告

シンポジウム「産業保健から  
みた就労支援とワークライフ  
バランス」に参加して

兵庫大学健康科学部

久井 志保



最初に登壇された渡井いずみ先生は、ワークライフバランス（WLB）について学術的な解説と、ご自身が産業保健師としてご経験された事例を基に具体的なサポートとして、「制度的サポート」「WLBによるメンタルヘルスへの影響の評価・調査」「社内でのWLB風土の構築」をご提言なされました。

次の山内千鶴先生は、日本生命保険相互会社において平成20年に設置された女性活躍推進専管組織「輝き推進室」の活動について変遷と現状をご講演して下さいました。女性の比率が高い企業特性の中で、女性自身や職場全体の意識変革の取り組みや、WLB対策は女性だけのものではないという考えに基づく「男性の育児休業取得100%の達成」や「早帰りDay」など非常に興味深いものでした。

最後の橋口克頼先生は産業医の立場で、ご自身の経験を振り返り、「メンタルヘルス」「母性管理」「がんと就労」「過重労働」といった産業保健活動とWLBの関係性を非常にわかりやすくご教示して下さいました。

討論は、まず座長の長井聡里先生がご自身の考えるWLBと産業保健活動についてご発言され、次いで特別講演の山縣然太郎先生から追加発言を頂き、世代格差、WLB活動による事業場への波及効果、WLBの多様性など様々な角度から意見交換がなされました。

私はWLBへの産業保健活動の展開には、人事部、産業医、看護職、各々が専門性を生かした関わりを連携して行うことが重要であると考えています。具体的には、人事部によるシステムや風土づくり、産業医によるメンタルヘルス不調者などへの医学的専門的ケア、看護職による健康相談等の個別ケアです。全体討議の中でもご意見がありましたが、保健師には個別ケアだけでなく予防や早期介入など全体的なアプローチを期待したいと思っています。また、労働者の一人としてWLBは他人事ではありません。「WLBがとれるように生きていきたい」と、改めて願いました。

## 第54回近畿産業衛生学会の報告

## 「優秀演題賞を受賞して」

(一財) 京都工場保健会

西田 典充



優秀演題賞に選んでいただき、ありがとうございます。「騒音職場の労働者の聴力に及ぼす各種因子の検討」は業務中、騒音特殊健診対象者の選別を依頼されたことが研究のきっかけでした。右も左もわからない中、森口次郎先生をはじめ、様々な方のお力添えがあり、発表にたどり着けました。深く感謝いたします。今回の発表を通して、産業医学の奥深さや、疑問点から出発して統計的な結論まで導くことの難しさを学ぶことができました。

研究では残念ながら聴力の予測は行えませんでした。引き続き、少しでも興味深い内容の発表を行い、会の発展に貢献していきたいと思っておりますので、今後とも皆様からのご指導ご鞭撻の程、よろしくお願いいたします。

パナソニック健康保険組合  
産業衛生科学センター

東 久博



この度は優秀演題賞をいただき、大変光栄に思っております。今回の発表では尿中マンデル酸のGC-MSによる高感度分析について報告させていただきました。私の所属する産業衛生科学センターはパナソニックグループの人と場の労働衛生管理を総合的にサポートする機関として、特殊健診、作業環境測定、生物学的モニタリング、労働衛生教育を行っております。

近年法改正に伴い年々判定基準が厳しくなり、求められるデータもさらに低濃度まで定量する必要性が高まってきています。これからも今回の受賞を励みとしてさらに質の高い分析データを提供できるように分析手法の開発、分析技術の向上に励んでまいりたいと存じます。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

## 第54回近畿産業衛生学会の報告

## 「第54回近畿産衛学会 若手奨励賞を受賞して」

和歌山県立医科大学  
医学部衛生学教室

津野 香奈美



この度、若手奨励賞を受賞致しました。数々の素晴らしい演題の中から選んで頂けましたこと、本当に感謝申し上げます。本研究は、社会医療法人の職員を対象に、インシビリティ（礼節の欠如）という概念に着目し、心理的ストレス反応並びに離職意思にもたらす影響を横断調査によって明らかにしたものです。発表後ご質問もたくさん頂き、本研究の発展に貴重なご示唆を頂きました。現在縦断調査を実施しているところであり、今後も近畿地方会において継続して発表できればと思っております。この度若手奨励賞に選んで頂きましたご恩を胸に、社会に役立つ研究を推進すべく精進して参る所存です。今後ともご指導・ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

京都大学大学院  
医学研究科 健康情報学

辻村 友香



この度は、若手奨励賞を頂き、誠にありがとうございます。「高血圧・糖尿病の可能性を指摘され「医師受診」勧奨を受けた健診受診者の受診の有無とその予測因子：健診とレセプトデータベースの突合による疫学的検討」というタイトルで、近年注目されつつある未受診者、未受療者の問題についての研究を行いました。発表会場では、健診現場に携わる方々を中心に現場に即した御意見、アドバイスを多く頂き、大変勉強になりました。今後の研究に生かしていきたいと考えております。この度は、大変貴重な経験となりました。御指導くださった、京都大学健康情報学中山健夫先生をはじめ皆様方に感謝申し上げます。

## 第24回産業医・産業看護全国協議会の報告

## 「第24回産業医・産業看護 全国協議会に参加して」

株式会社平和堂

河津 雄一郎



石川県金沢市で開催された第24回産業医・産業看護全国協議会に参加してきました。今回の協議会は「産業衛生をすべての人々と職場に」がテーマであり、メインシンポジウムでは「分散事業場・小規模事業場や請負・派遣・非正規すべてを視野に入れた産業保健のあり方」と題し、まず、パナソニック健康保険組合の橋口克頼先生から、全国に分散している子会社への産業保健の展開についてご紹介いただきました。次に勤労者健康学研究所の斉藤照代先生と日本労働安全衛生コンサルタント会の中屋重直先生からは、それぞれ労働安全衛生コンサルタントの立場として、また土蔵社会保険労務士事務所の辻浩義先生からは社会保険労務士の立場としての、小規模事業場への関わりについてのお話でした。最後に株式会社OHコンシェルジュの東川麻子先生からは産業保健サービス会社の経営者としての総合的なサービス展開について話題提供がありました。全国協議会らしい実務に基づいたお話であり、人員や予算に余裕がない中小企業が主体である小規模事業場に対する産業保健サービス提供には、産業医・産業看護職だけではなく、社会の様々なリソースを適切に活用していく必要性を感じました。

また、様々な実務的なセッションが数多く開催されていましたが、特に今回は緊急企画として改正労働安全衛生法によるストレスチェックについて、厚生労働省労働衛生課長の泉陽子先生のご講演がありました。ストレスチェックについては当学会からも学術の立場から様々な要望や意見が表明されていますし、何より実務にも大きく影響する施策でもありますので、大勢の参加者が聴講し、様々な質問がでていました。それぞれの質問に対しては、厚生労働省内でも実施に向けての詳細は未だ検討中であるにもかかわらず、泉課長から丁寧な回答がなされていたので、現状の認識を深めることができました。

全体を通じて、今回のテーマにあるように、小規模事業場や医療機関など、今まで産業保健の枠組みでは十分対応しきれていなかったセクターへのアプローチについて、改めて考えさせられた協議会でした。

# 平成26年度日本産業衛生学会役員選挙結果報告

近畿地方会選挙管理委員会 委員長 豊川 彰博

今選挙では近畿地方会の有権者は1075名でした。これに基づき割り当てられた役員数は代議員107名で、地方会としては代議員および地方会会長1名、地方会監事2名の選挙を行いました。6月21日に改正されました近畿地方会選挙細則に従い代議員は会員の互選により、地方会会長および地方会監事は推薦および立候補により候補者を募りました。その結果、地方会長候補1名、地方会監事候補2名といずれも定数となったため、会長、監事共に無投票で当選とし、代議員のみ郵送投票により選挙を実施しました。

投票者総数は427名でしたが、うち8名については

規約に従い無効と判断され、有効投票数は419名でした。開票作業は平成26年10月18日に行い、新規役員を選出しました。今回の選挙から代議員の就任確認は実施しないことになりましたので報告時点では繰り上げ当選は発生しておりません。

理事候補5名の選出は代議員の互選により電子投票で行い、92名より投票がありました。開票作業は平成26年12月1日に行いました。なお、今回選出した理事候補者は、来年度全国学会時に開催される総会の承認を経て理事となります。

■近畿地方会 会長  
(敬称略 定員1名)

氏名	得票数
森岡 郁晴	無投票 当選

■近畿地方会 監事  
(敬称略 定員2名)

氏名	得票数
大脇 多美代	無投票 当選
車谷 典男	無投票 当選

■近畿地方会選出  
理事候補  
(敬称略 定員5名)

氏名	得票数
圓藤 吟史	57
井上 幸紀	48
鈴木 純子	35
廣部 一彦	29
久保田 昌詞	28
中西 一郎	25(次点)

理事は全国総会の承認を経て決定します

■近畿地方会 代議員  
(敬称略 定員107名)

氏名	得票数
鮫島 真理子	105
原田 昌子	77
圓藤 吟史	77
田中 紀子	74
村田 理絵	71
有西 幸子	70
大脇 多美代	69
廣部 一彦	68
中西 一郎	67
杉岡 潔子	66
中井 栄	66
津田 由紀	65
中島 美繪子	63
鈴木 純子	61
岡田 邦夫	60
伊藤 正人	59
丸山 総一郎	58
久井 志保	57
圓藤 陽子	55
森口 次郎	55
久保田 昌詞	55
松本 泉美	54
車谷 典男	53
米山 貴子	53
林 朝茂	52
平田 真以子	52
上原 新一郎	50
東 文香	49
松田 裕子	49
三浦 克之	49
堤 梨恵	47
藤吉 奈央子	47
井上 幸紀	46
岡田 章 <small>(株)クボタ枚方製造所</small>	46
守山 敏樹	46
萩原 聡	45

氏名	得票数
猪阪 善隆	45
鍵谷 俊文	45
河合 俊夫	45
下村 伊一郎	45
西内 恭子	45
藤岡 滋典	45
藤森 次勝	45
坂本 史彦	44
佐藤 恭子	44
宮下 和久	43
上坂 聖美	43
木村 隆	43
北村 栄作	43
田内 潤	43
東堂 龍平	43
豊川 彰博	43
日高 秀樹	43
野村 誠	42
益江 淑子	42
小林 伸行	41
寶学 英隆	41
後藤 浩一	41
駒村 和雄	41
富永 なおみ	41
中嶋 千晶	41
三嶋 正芳	41
垣本 洋希	40
竹村 芳	40
田邊 淳	40
玉木 登志枝	40
林 佐栄子	40
堀口 俊一	40
前久保 邦昭	40
松澤 佑次	40
竹下 達也	39
石神 真人	39
金澤 禎行	39
清原 達也	39
久保 とし子	39

氏名	得票数
久保田 稔	39
瀧本 忠司	39
照屋 直美	39
濱田 千雅	39
福田 昌宏	39
細谷 詩子	39
宮上 浩史	39
吉川 卓也	39
木曾 真一	38
立間 治人	38
志摩 梓	37
中田 ゆかり	37
出雲谷 恭子	37
大橋 誠	37
金山 周次	37
辰巳 佳次	37
谷口 有紀	37
津田 恵理	37
仲岡 裕右	37
中村 千賀	37
並河 啓	37
引石 文夫	37
日野 孝	37
寺澤 嘉之	36
高山 純一	36
長谷川 恭一	36
朴 永大	36
前田 宏明	36
八木田 あけみ	36
埜田 和史	35
藤田 智子	35
夏目 誠	35
奥野 優	35(次点)
櫻木 園子	35(次点)
磯島 康史	35(次点)
辻本 士郎	35(次点)
榎屋 義雄	35(次点)

選挙細則に従いくじで順位決定



## 産業看護部会からのお礼と 今後の方向性

昨年9月1日に代議員選挙が公示され、日本産業衛生学会代議員・地方会長・地方会監事の選挙が実施されました。近畿地方会では今回新しく選出された代議員は107名であり、そのうち産業看護職は27名(25.2%)を選出することが出来ました。これも会員皆様方のご支援のたまものと厚く御礼を申し上げます。近畿地方会会員1373名(平成24年10月現在)のうち産業看護職会員は494名(35.9%)ですが、昨今、政界でも女性の登用が重要視されるなか当地方会でも健闘したのではないかと考えております。

それだけに代議員は名誉職(?)ではなく、責任が大きいと考えます。近畿地方会会則にも掲載されていますように、代議員は代議員会を組織し、幹事会の諮問に応じ、幹事会が総会に提出する議案を審議し、重要事項につき意見を述べる役割を担っています。

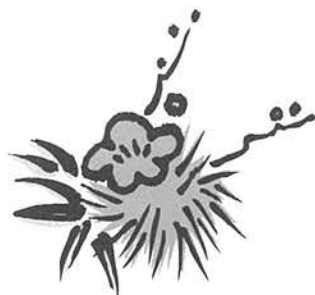
日本産業衛生学会が学術的にも産業現場実践の立場からも、常に新しい見識と研究心、向上心をもって学会の発展に寄与することが会員の使命ではないかと思えます。

4部会の連携はもとより、産業看護職が看護の枠組みだけでなく、幅広く多くの会員間の交流を深めながら、新しい年を迎え会員の皆様と一緒に更なる進歩を遂げるべく、日々邁進していきましょう。

## 技術部会からのお知らせ

平成26年度は12月14日の技術部会の研究会「中国の職業病症例と日本の職業病症例の報告会とその予防としての保護具」にはたくさんのご参加ありがとうございました。

労働衛生管理は世界共通したシステム「リスク管理」で進められています。これらの管理方法では曝露を評価する技術が重要です。技術部会に参加して、これらの技術の向上に努めませんか。事務局 河合 俊夫



## 第17回近畿臨床産業医学 フォーラムのお知らせ

謹啓 時下、先生方におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、第17回近畿臨床産業医学フォーラムを下記のように開催する運びとなりました。

ご多用中とは存じますが、是非ご出席戴きますようご案内申し上げます。 敬白

当番世話人 岡田 章

世話人 岡田 邦夫・武田 和夫

廣部 一彦・藤岡 滋典

日時：平成27年2月4日(水)18:00～20:30

場所：ANAクラウンプラザホテル大阪  
(全日空ホテル) 3階「万葉の間」  
大阪市北区堂島浜1-3-1  
TEL 06-6347-1112 (代表)

参加費：1,000円

申込み：FAX 06-6201-9579

締切：平成27年1月28日(水)

### 一プログラム一

テーマ「職域における糖尿病の管理」

18:00～ 製品紹介 MSD(株)

18:15～ I. 基調講演

「職域におけるメタボリックシンドロームの管理」—対費用効果の観点から—

座長 公益財団法人 大阪労働衛生センター第一病院 岡田 章

講師 三洋電機連合健康保険組合 健康管理センター 所長 日高 秀樹

19:15～ II. パネルディスカッション

「職域における糖尿病対策の実績」

座長 公益財団法人 大阪労働衛生センター第一病院 岡田 章

パネリスト

(1)就業と治療の両立支援

大阪労災病院 治療就労両立支援センター 部長 久保田 昌詞

(2)食事・運動療法の指導の実績

阪神電気鉄道(株) 野田診療所 所長 今野 英一

(3)産業保健スタッフからの支援の事例

栗田工業(株) 大阪支社医務室 鈴木 美恵子

共催：日本産業衛生学会近畿地方会・MSD株式会社

問合せ先：第17回近畿臨床産業医学フォーラム事務局  
(担当) MSD(株) 加賀

E-mail: satono.kaga@merck.com

Fax: 06-6201-9579



## 私たちの職場 (31)

# ブリヂストン 彦根工場

健康管理センター 産業医 中山 邦夫

### 1. ブリヂストングループ

ブリヂストンは1931年に設立され、ブリヂストングループは、世界25カ国に180以上の生産・開発拠点を持ち、150を超える国々で事業を展開しています。企業理念は、使命を「最高の品質で社会に貢献」、その使命を果たすための心構えが「誠実協調・進取独創・現物現場・熟慮断行」です。事業内容は、タイヤの製造及び販売を主体とした「タイヤ部門」と、化工品、スポーツ用品、自転車、その他各種事業を行う「多角化部門」によって構成されています。

### 2. 彦根工場

当工場は、彦根市南西部（JR南彦根駅東方2.3Km）に所在し、1968年に操業開始しました。敷地面積は約65,700㎡で、乗用車用ラジアルタイヤ生産における当社の基幹工場です。工場の敷地を貫く長さ700mのメイン通路の両脇にはけやきの巨木の並木があり、秋には落ち葉を美しく散らしています。約1,500名の社員が在籍しており、その約7割が4班3交替勤務に基づく深夜業従事者であることが健康管理上の特徴があります。

### 3. 健康管理センターの業務

健康管理センターは、当工場における健康管理・労働衛生管理業務を担当し、4名（医師、看護師、衛生管理者、事務、各1名）で構成されています。デジタルX線撮影装置・心電計・オージオメーターが設置され、健康診断の実施や診療を円滑に進めています。健康管理センターがある建物の近傍の楠の巨木には、毎年12月にはクリスマスイルミネーションで飾られ、夜には美しいLEDの光を点滅しています。

業務の年間のスケジュールとしては、2～3月には春季健康診断（定期健康診断・特殊健康診断）、8月末～11月には秋季健康診断（深夜業健康診断・特殊健康診断）、11月にはインフルエンザ予防接種（1,100名程度が希望）が主なものです。他にも作業環境測定・特定保健指導・面談（長時間残業面談、復職時面談など）・保険診療など、健康管理・労働衛生管理に係る様々な業務があります。

彦根工場では、中高年の従業員も多くおり、高血圧・糖尿病・高脂血症などの生活習慣病の指導・治療は重要課題です。生活習慣病対策では、定期健康診断が重要な機会です。定期健康診断・特殊健康診断は、対象の者全員に法定の項目を必ず受診させると共に、健康データを収集する重要な機会です。当社の定期健康診断では全員を採血検査の対象としているので、全員の

経年的なデータの蓄積が出来ます。要治療の者には、「かなり昔は正常範囲内だったデータが、徐々に悪化傾向を示し、数年前からは要治療の域に達している」ことを提示して、生活習慣変容・内服開始の必要性について説明しています。必要時には過去からのデータの推移を即座に提示できるようにデータ整備を行っています。ご自身の過去数年のデータの推移を提示することは、説得力があり効果的です。他方、若年者でも高脂血症・高尿酸血症などを示す者も結構おり、このような者に生活習慣変容を考えてもらうことは難しいものです。当センターでは、従業員への保険診療も行っているため、治療への同意があればすぐに治療開始が出来ます。糖尿病・高血圧・高脂血症などの要治療の方で治療の必要性について何回も説明をしてきた者が、ようやく治療開始の同意をされて内服を開始し、データが改善していくのに接するのは、大変うれしいことです。特定保健指導も積極的に行っており、対象者の9割近くに指導を行って、生活習慣変容などにつながっています。

さらに、工場で使用される様々な物質・様々な作業の管理のため、粉じん・有機溶剤・電離放射線・騒音・赤外線紫外線・レーザー光線・VDT作業などに関連する労働衛生管理も大切な業務です。作業環境測定・作業者の把握・作業教育など、法令とさらに社内規定に基づき、「健全な労働力の確保と働きやすく快適な職場の整備」を目指して活動を進めています。

### 4. 健康管理の目標

事業所の健康管理には、様々な方面からの様々な要請・要望があります。法的規制・労働衛生行政の動向・産業医学の発展動向・事業所の動向・個々の従業員の希望…などなど、様々な状況を踏まえながら、事業所および従業員の健康水準の向上に寄与していけるように、日々努力して取り組み続けています。



## 会員の声

### “ビッグデータ”って？



大阪市立大学大学院医学研究科  
産業医学  
上原 新一郎

産業保健分野では健康診断や保健指導、面談結果など多くの医療情報が日々蓄積されています。産業保健スタッフはそのデータを集約し、年次報告や学会発表を行っており、日頃から「ビッグデータ」を取り扱っています。

最近、医療のみならず様々な方面で、この「ビッグデータ」という言葉を耳にします。なぜ、今、「ビッグデータ」が叫ばれるのでしょうか？その理由のひとつには、パソコンや統計ソフトの性能が向上し、大量データへのアクセスが容易になった事があげられます。しかし、いくらハードが充実してきても、我々ユーザーが正しい方法でデータを解析し、はじき出された数字の意味を正しく理解しないといけません。データが厳正に集められ管理されているか？適切な解析手

法なのか？結果の解釈は正しいか？いろいろ考えなければいけません。その為にきちんとした疫学・統計学の知識、技量を身につけることが大事です。

一方で、「データがあるから、何かわかることがある」と常に考え、クエスチョンを持つことが重要です。そして、そのためには産業保健の現場なら、「ある職場環境の労働者に何か一定の傾向がないか？」「どのような指導をすると効果的か？」など。これらを科学的に証明するツールとしてデータを解析するのです。EBM (Evidence Based Medicine) の重要性が叫ばれて久しいですが、産業保健分野だからこその疫学研究、エビデンスがたくさんあります。

最近では、健康データなどにに基づき健康保持増進のために厚生労働省から「データヘルス計画」が公表されました。また、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」が新たに公布・施行され、疫学研究の重要性が増しています。ビッグデータの叫びがブームで終わらないためにも、エビデンスが発信されるのを待つのではなく、自らがエビデンスを発信することが産業保健スタッフの重要な役割でもあると思います。



### 第54回近畿産業衛生学会の 一般演題に参加して



公益社団法人  
関西労働衛生技術センター  
浅野 峰子

平成26年11月15日に東大阪市の近畿大学本部で開催されました第54回近畿産業衛生学会において、一般演題「鉛作業者の血中鉛と $\delta$ -アミノレブリン酸の分布」を講演させて頂きました。

会場では、労働衛生関係機関において活躍されている高名な先生方に、聴講して頂き、大変身の引き締まる思いが致しました。また、研究者の方々より貴重なご質問を頂き、新たな視点を得る事ができ、将来の研究活動に大きな励みになりました。今後は、ご指摘頂いた事項を忘れずに、更に研究を深めていきたいと考えております。

講演終了後は、安堵の気持ちとともに、ご指導頂いた河野公一先生をはじめ、ご協力頂いた方々に、心より感謝したい気持ちになりました。

当日は、一般演題の研究事例を多数拝聴させて頂き、

私達の業務でもあります特殊健康診断における生体試料分析や治験の研究発表には、とても興味深く参考になりました。

「血清中インジウムの分析方法」では、マイクロウェーブ装置を用いない前処理方法が提案され、定量下限値や、変動係数の照査など精度管理に努力されている内容が大変参考になりました。

「ヘッドスペース・GC-FID法における尿中フッ素の分析」では、尿中フッ素量分析にイオン選択電極法が主に用いられておりますが、TMCS (トリメチルクロロシラン) による誘導体化とヘッドスペース・GC-FIDを用いることにより、より簡易に、十分な感度と良好な結果が得られるとの報告は、大変参考になりました。私共でも取り組んでいきたいと思っております。

このような学会に参加する機会を与えて下さった、主催の日本産業衛生学会近畿地方会、ならびに事務局であります近畿大学医学部公衆衛生学教室の皆様方に心より感謝申し上げます。

産業保健従事者の一人として、今回の貴重な体験を、健康診断業務、分析業務、作業環境測定業務等の労働衛生業務に、役立てていきたいと考えております。

## 会員の声



### 「かけだし産業医として」

京セラドキュメントソリューションズ(株)  
本社・健康推進課  
西川 嘉郎

今年度より日本産業衛生学会近畿地方会に入会させて頂きました。今後とも宜しくお願い致します。

私が日本医師会の認定産業医の資格を取得致したのはしばらく前になりますが、実際の産業医活動を始めたのは今年度初めからで、本当に駆け出しだなあと実感する毎日です。私が現在勤めている京セラドキュメントソリューションズ株式会社は、大阪市に本社を置く情報機器メーカーです。

長年臨床医をしてきた私に取りましては、産業医の業務は慣れない点が多々あります。これまでは患者さんが来られて、患者さんの訴えを聞き、診断・治療をしていくという立場でしたが、現在は、健診の結果や長時間勤務などで問題のある人をこちらから呼び出し、問題点を指摘し、そこから先の診断・治療を外部

の医療機関に依頼します。そのことは分かっていたつもりでしたが、勤務し始めた当初は、ついそれまでの癖で、診断や治療に向けて時間をかけそうになってしまい、仕事に慣れるのに時間がかかりました。しかし、時には、これまでの臨床医としての知識が生かされる時もあり、ほっと安心します。

弊社では、本年度禁煙率向上に向けた取り組みを行っております。禁煙の重要性を社員に伝えるため、どのような話題を提供して、どのように話すか効果が上がるのかを日々考えております。しかし、実際はこれがなかなか大変で、本当に教育者としてのスキルが要求される業務だなと痛感しています。

今まで臨床医の仕事が忙しく機会が無かった事ですが、この前は関連のある京セラドームへ野球観戦に行ってきました。なかなかのいい試合で気分転換が図れました。心身ともに健康であるためにはこういうことも大切だなと感じました。

産業医の仕事を始めただけで、慣れないことも多いですが、一方でやりがいのある仕事だと感じる時もあります。諸先輩方を見習い、今後も頑張っていこうと考えている次第です。



### 海外旅行から得たもの

三菱樹脂(株)長浜工場  
健康管理グループ  
西川 幸位

社会人になり6年目の今年、公私ともに変化が多く私にとって大切な年になりました。自分のキャリアについて考える時期があったり、プライベートでは家庭を持ち、初の日本脱出を果たしたり、様々な経験ができた1年でした。いつも私は自分のご褒美に、年1回、東京ディズニーランドに行っては次年度へのエネルギーを補充していました。今回結婚休暇をいただき、本場の雰囲気を味わいたいとアメリカのディズニーワールドに行ってきました。

初めての海外旅行は大きな言葉の壁にぶち当たりました。店員さんが何と言っているのかが理解できず、精一杯の英語を駆使して注文しても眉をひそめられ、言いたいことが通じないというジレンマを体験し、アイ스티ー1杯を頼むのも一苦勞でした。旅行中は心

が折れそうになりながら、何とか身振り手振りの会話で乗り切りました。

また、広大な土地を活用した本場のスケールの大きさと現地の方々の明るさに驚きました。細部まで映画の世界観を出すことへのこだわりや、ジョークを交え気さくに話しかけてくれる方々と接するなかで、日本との文化の違いを客観的に感じる事ができました。海外に出ていくことで様々な世界観に触れ、日本の良さ、他国の良さに気付くことができました。

今回の旅行を通して私が知ることができたのは、今見えていることが全てではなく世界は大きいということでした。視野を広げ、違った目線で自分を見つめ直す大切さを痛感しました。同時にたくさん発見できたことを嬉しく思いました。これは仕事の面でも共通することで、学会や研修会を通して新しい情報や様々な考え方を知り、今活動していることを見つめることが大切だと感じました。これから経験を積むなかで産業の現場で働く保健師として求められることを意識し日々の業務に勤しみ、次の機会のために英語力向上にも励んでいきたいと思えます。

## 議 事 録

### 2014年度第3回幹事会詳細議事録(案)

日 時：2014年11月15日(土)12:05～12:50  
場 所：近畿大学東大阪キャンパス21号館2階  
学生ホール

出 席：車谷・清田・圓藤・久保田・中島・宮上・  
伊木・伊藤・井上・大脇・岡田・河合・  
北原・木村・鮫島・島・鈴木・竹村・中西・  
廣部・藤岡・丸山・森口(順不同・敬称略)

欠 席：豊川・宮下・森岡・山田(順不同・敬称略)

冒頭、伊木学会長からのご挨拶と優秀演題賞等の  
選考結果報告があった。

第4回近畿産業衛生学会優秀演題賞に、京都工  
場保健会西田典充氏ほかと、パナソニック健康保  
険組合産業衛生科学センター東久博氏ほかの演題  
を選出した。また、第54回近畿地方会の若手奨励  
賞には和歌山医大衛生学教室津野香奈美氏と、  
京都大学大学院健康情報学分野辻村友香氏を選出。

### 議 事

#### 1. 選挙管理委員会からの報告(丸山選挙管理委 員会委員)

##### 1) 代議員選挙結果について

当選得票数は35票で、得票同数の候補者について  
は選挙管理委員会委員長が抽選し、  
107名新代議員が選出された。詳細は1月15  
日号の地方会ニュース(本号)に報告する予定  
である。

##### 2) 理事候補者選挙について

電子投票で、投票期間は11月20日0:00開  
始、11月26日23:59終了。開票は12月1日に  
選挙管理委員立ち合いで行われる予定である。

#### 2. 来年度予算案

車谷会長から、事前配布資料に基づき説明が  
あった。(1)経常収益4,180,300円に対して、(2)経  
常費用5,260,000円と赤字予算であるが、約300万  
円の繰越金があるため、事業拡大を図っている。  
これまでの大きな変更点は事務局業務の委託費  
を設けた点である。中堅学会の事務局支局実績  
のある中西印刷の業務委託見積もりが年間80万  
円、次期学会事務局となる和歌山医大の森岡教  
室に20万円の計100万円を事務局費とする。近  
畿地方会の会計年度末である2月末日以降に、  
決算・予算、事業計画を組み、6月の地方会総  
会で承認を受けるという手続きは従来通りに行う。

#### 3. 第55回近畿産業衛生学会の進捗状況

丸山総一郎学会長から順調に準備が進んでい  
るとの報告があった。2015年11月14日(土)に兵  
庫県医師会館で開催予定。特別講演として東邦  
大学黒木宣夫先生、シンポジウムとして「変わり  
ゆく職場ストレスと職場スタッフのメンタル  
ヘルス教育のあり方」を予定している。

#### 4. 第88回日本産業衛生学会の進捗状況

車谷企画運営委員長から、事前配布資料に基  
づく説明があった。5月13日(水)は許容濃度委  
員会などがあるほかは会場設営日、学会本体は  
14日～16日の3日間である。シンポジウムとフ  
ォーラムの日時は決定し、教育講演は「産業保  
健の歴史と展望」という統一テーマのもとで、  
職業性ストレス、じん肺、職業がん、産業衛生  
学会の歩みなどを企画中である。

#### 5. その他

1) 第56回近畿産業衛生学会(2016年)について  
滋賀医大峠田和史先生を学会長とし、滋賀  
県で開催することを承認。

2) 産業医産業看護全国協議会の開催(2016年)  
について

圓藤理事長から、第26回産業医産業看護全  
国協議会を近畿地方会が運営するとの説明が  
あった。2016年9月8日から11日の間、大阪  
国際会議場を予約した。

##### 3) 幹事会等日程

①新旧合同幹事会：2月中下旬で調整

次期幹事は森岡次期会長が、選挙で決定し  
た新理事候補者と相談の上決定し、2月中下  
旬に新旧合同幹事会を開催する予定である。

②次期地方会総会：6月20日(土)

##### 4) 地方会ニュース・ホームページ関係

中西広報担当幹事から、当日配付資料に従  
って、ホームページの更新・閲覧が活発に行  
われていること、1月15日発行の地方会ニ  
ュース101号の記事担当者への依頼も順調であ  
ることが報告された。

##### 5) 第3回本部理事会報告

圓藤理事長から、近畿地方会から推薦した  
4先生の名誉会員が承認され、次回総会で表  
彰予定である。新研究会については活動状況  
を確認し、ある程度の規制をかける必要があ  
る。9月実施のACOH2014は成功裏に終了した。

##### 6) その他

伊藤幹事から、近畿産業医部会に対する産  
業医部会本部助成金の収受について質問があ  
った。車谷会長から、近畿地方会の収入とした上  
で地方会として決算を行うとの説明があった。

## 日本産業衛生学会近畿地方会 2014年度第2回代議員会 (新旧合同)

日時：2014年11月15日(土)13:00～13:30  
場所：近畿大学東大阪キャンパス20号館  
2階20-2教室

1. 開会
2. 地方会長挨拶
3. 議長選出：上原新一郎会員が選出された
4. 代議員会成立の確認  
現在の代議員数143名（11月1日現在）のうち、出席45名（委任状62名）で、現在数の過半数出席で成立（地方会会則第13条）を確認。
5. 議事（11頁の幹事会の議事録参照）
  - A. 伊木学会長挨拶と優秀演題賞の選考報告
  - B. 審議事項
    - 1) 選挙管理委員会からの報告
      - ①代議員選挙結果について
      - ②理事候補者選挙について
    - 2) 来年度予算案
  - C. 報告事項
    - 1) 第55回近畿産業衛生学会の進捗状況
    - 2) 第88回日本産業衛生学会の進捗状況
    - 3) 第26回産業医産業看護全国協議会の開催（2016年）について
6. 議長解任
7. 閉会

## 会員の異動（敬称略）

〈新入会員〉	
小川 善弘	中災防大阪労働衛生総合センター
近藤 祐子	一般) 京都工場保健会
岩橋 明子	帝塚山大学現代生活学部食物栄養学科
伊藤 麻人	大阪大学大学院
恵谷 秀紀	医財) 医親会OBPクリニック
大西 芳晴	大西歯科医院
貝森 亜紀	ダイハツ京都工場診療所
菊地 浩	パナソニック 健保産業衛生科学センター
黒田 真司	黒田歯科医院
七堂志津香	一財) 京都工場保健会
高橋 結子	オムロン草津健康相談室
西澤 聡	東住吉森本病院
橋本由加利	はしもと歯科医院
長谷川暢子	一財) 京都工場保健会
早川 純子	オムロン草津健康相談室
平原 和	大阪府済生会吹田病院
三木 佳子	はばら歯科
山口 隆史	山口歯科医院

## 近畿地方会総会の日程のお知らせ

平成27年度の日本産業衛生学会近畿地方会の総会は平成27年6月20日（土）です。ご予約おきください。

## 編集後記

「近畿地方会ニュース」は100号の発刊を終え、101号という新しい時代に入りました。「ニュース」が創刊された1989（平成元）年は、東西冷戦の象徴的存在であったベルリンの壁が崩壊し、私が産業保健の世界に足を踏み込んだ年でもありました。爾来25年、社会は多様性が増し、産業保健も大いに拡大・発展しました。新しい四半期がどのような展開を示すか、若い会員の方々の活躍を大いに期待します。（山田誠二）

編集委員（五十音順）  
河合 俊夫・鈴木 純子・竹村 芳  
中西 一郎（広報事務局）・藤岡 滋典  
丸山総一郎・森口 次郎  
山田 誠二（編集責任）